

# 第1回登山教室 安戸山

平成26年6月15日(日)



関谷のコンビニ前から見た安戸山（一番奥の山、手前は前安戸山）

梅雨の晴れ間に恵まれ、今年度最初の登山教室が開催された。参加者は山の会から初参加の斎藤さんを含め9名、教室生の平林さん1名の合計10名。

安戸山は、栃木百名山の一つで、昭和天皇が皇太子時代の正12年8月10日に散策され、野点が行われた由緒ある山です。

登山拠点は、遅野沢コミュニティセンター駐車場を登山口とし、バリエーションルートを辿ります。

7時45分、駐車場を出発。左手に進路を取り林道を行くとコアシサイが可憐な姿を見せてくれました。林道の左斜面は人工林、右斜面は広葉樹林が広がっています。私達は林道を外れ広葉樹林の中へ進みますが、そこには道がありません。これが噂に聞いた先生得意の『藪こぎ』の始まりでした。餓鬼道は鬱蒼としていました。傾斜はキツイが足下には落ち葉の絨毯が広がり足当たりは柔らかく良好でしたが、脹脛に堪えそうです。



登山口の遅野沢コミュニティセンターの駐車場（旧遅野沢分校の跡地）の門柱



コアシサイ





ギンリョウソウ



ニンジンソウ



トリアシショーマ

餓鬼道を登ること1時間45分、9時30分に林道に合流。ホツとするのも束の間、シヨートカットするため、にまた、道なき道を進むこととなる。しかし、今までの森とは様子が

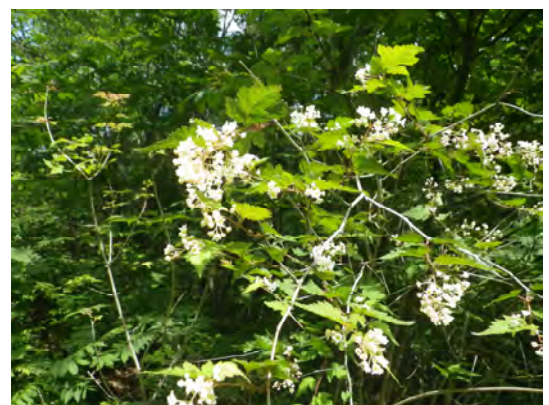


サワグルミの花

違った。間もなくギンリョウソウと御対面。少しづつ花科の植物が目につき始めました。まだ、深い森の中ですが、ふと上を見上げると木々の隙間から青い空が覗き、陽の光に照らされた木の葉は、新緑が目眩しく、時折吹く風は爽やかだ。



今が盛りのヤマボウシ



9時55分、餓鬼道出会いに到着。この出会いは、峠の平を経由して山頂を目指すルート。アグリパル塩原経下山するルートの分岐点になっている。私達は、峠の平へ向かって林道を進み始める。間もなく、どこからかエゾハルゼミの鳴き声が聞こえてきた。また、アザギマダラだろか、蝶が舞いを披露している。「エゾハルゼミが鳴き出せば夏山の始まり。鳴いている間は雨の心配はない。」と先生が話してくれました。私は、報告係初体験、先生の一言一句を逃すまいと必死にペンを取るが、既に地図は文字で真っ赤になっていて。歩きながらの作業のため解読不能。大役が務まるか不安がよぎった瞬間でした。林道の右斜面の樹林帯を覗き込むとコバイケイソウの葉の群生する様が目飛び込んできました。この花はピーカンの空の下で見ると、



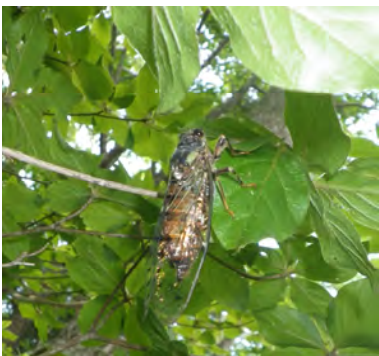
今日のような雑木林の中で、霧が流れるしっとりとした景色の中で眺めた方が数段引き立つと思いました。

10時40分、峠の平に到着。ここは小さな広場になっている。山の中腹だというのに犬がいる。野犬ではなさそうだ。この犬は山を熟知しており、私達の前から消えては現れを繰り返して、とうとう最後まで一緒に山を楽しんだ『くの一』のような犬でした。

いよいよ安戸山の核心部に入ります。広場から山道に一歩踏み込むとそこは美しい雑木林の小径です。森の下草は一面の小笹。安戸山の北斜面をトラバースして行くと右手に視界が広がり、10時50分尾根に取り付きました。180度向きを変え、痩せ尾根を伝わって行くと両側にイワウチワの葉が沢山ありました。それを踏まないように気をつけながら林の小径を抜けると目の前の急斜面が現れる。ロープはあるがため息がでた。ロープに頼らず三点支持で登るよう先生から喝が入る。ふくらはぎが泣いている。足が攣りそうになる・・・



最後の登りです



天から降ってきたエソハルゼミ

頑張った甲斐があって、一時三〇分山頂到着。やや広い山頂は高木が育っていて、木々の間から少し眺望が望める程度でした。予定を変更しここでランチタイムです。山頂のご飯は、格別に美味しい。先生がダニを見つけ注意を促す。気が付けば、ザックや服にダニが付いている。また、天から蝉が降ってきて、山行ネタが一つ増えて良かったねと皆から励ましの言葉を頂いた。肌の露出は禁物です。



山頂(△1,152m)にて

12時10分、山頂を後にして前安戸山へと出発です。緩やかな小径を下り12時45分前安戸山に到着。森の中のピークで木に看板があったように記憶する。更に下り始めて間もなく、金丸さんが小鹿を見つけた。森の中にバンビと山ガール・山ボ



ーイとまるで絵本の中の光景のよう。

安戸山のピークを2つ越え餓鬼道出会いに着いたのは何時だったろうか？後はアグリパル塩原の標識に従い下るだけだったが、更なるバリエーションルートを行くことになりました。急斜面ではザイルのお世話になること3回。これまで培ったロープワークの実践です。頼もしい山ボーイ達の力添えのお陰で皆ロープ捌きもまずまずです。

14時30分、ザイルを使いながら辿り着いたのは、罅沢でした。川幅はさほど広くはないが、水量も程々にあり流れも速い。慎重に向こう岸へ渡ったり戻ったりと下流に向かう。水の中に手を入れてみれば、まだまだ冷たい季節。しかし、私だけ身体で水温を確かめる羽目になりました。

1度だけでは物足りず2度も足を滑らせ沢の中に落ちたのです。植竹会長さんと伊藤さんに引っ張り上げてもらい、事なきを得ましたが、後に膝を打撲したことが判明。サウナの後と真夏の水風呂は格別ですが、6月の水風呂には極力浸からない方が賢明です。人は予想外の出来事に直面すると前後の記憶が飛ぶものだということも認識しました。

やっこのことで、暮沼集落へと続く一般ルートに辿り着くも皆の足取りは軽やかです。教室生の平林さんも軽快です。途中例の『くの一犬』は、私達の無事を確かめたかのように集落のどこかに姿を消して行きました。

16時00分、予定より2時間遅れてコミュニティセン

ター駐車場に到着。安戸山はいくつもの表情を持ち、里山とは言い難い懐の深い山でした。また、一日中天候に恵まれ楽しく内容の濃い登山教室となりました。  
(市村 記)



- とき 平成 26 年 6 月 15 日 (日)
- ところ 安戸山 (△1,151.5m)
- てんき 快晴
- 参加者 藤田 (CL)、植竹 (SL)、海津 (撮影)、市村 (報告)、伊藤 (記録)、古矢 (会計)、坂本、斎藤、金丸、平林

○コースタイム

- ハーモニホール＝遅野沢登山口－⑦餓鬼道分岐－④罅の平  
07:00            07:30～45            09:55            10:30～35  
－⑤尾根分岐－⑥安戸山 (昼食)            －前安戸山－  
10:50            11:30～12:15            12:45  
⑦餓鬼道分岐－②罅沢－遅野沢登山口－ハーモニホール  
13:15            15:35            16:00            17:00